

フダンソウ

年間通し種まき，収穫



——永田 茂穂

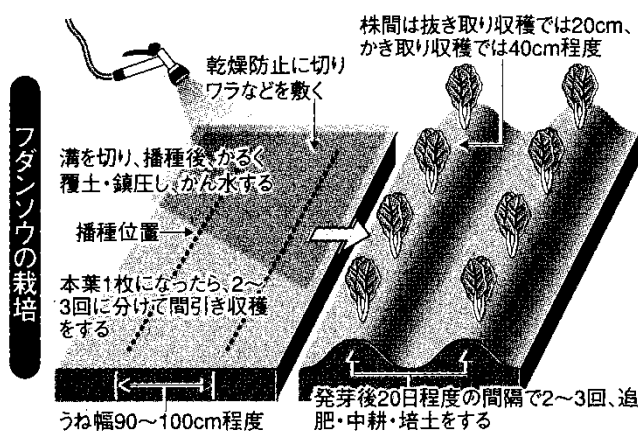
アカザ科の1・2年生草本です。原産地は地中海沿岸から中東地域で、紀元前1千年くらいには栽培されています。日本へは17世紀に中国から伝わっています。

時を選ばず種まきができ、生育が旺盛で、葉をかき取っても次々に若い葉がでて、一年中とぎれることなく収穫ができることから不断草（ふだんそう）の呼び名になっています。別名トウヂシャとも呼ばれ、鹿児島ではエドナ、関西ではウマイナなど各地で色々な呼び方がされています。

耐暑性が強いので、夏の厳しい西南暖地では夏場の青菜として珍重されてきました。近年、ホウレンソウの耐暑性品種が出回るようになり、栽培は家庭菜園程度に減少しています。

カルシウム、鉄、カロテン、ビタミンB2などを豊富に含み、ホウレンソウに匹敵する優れた黄緑野菜です。ホウレンソウと同様におひたし、あえ物、スープなどに利用されます。

発芽適温は25度で、盛夏期でもよく発芽・生育します。また、比較的低温にも強いです。主に4月に播種して6月ごろから収穫する春まき栽培と、9、10月に播種して年内から4月ごろまで収穫する秋まき栽培があります。ここでは、じかまきの春まき栽培を紹介します。



日当たりが良く排水の良いほ場を準備します。播種の1週間前までに1平方メートルあたり堆肥2キロ、苦土石灰100グラム、化学肥料60グラム（3要素15%の場合）程度を施し、耕うんします。うね90～100センチに浅く溝をきり、すじ条に播種します。種子が隠れる程度に覆土し、くわなどで軽く鎮圧後、かん水します。また、乾燥防止に切りわらなどを敷きます。

発芽後、本葉1枚のころから2、3回に分けて間引きをします。間引き収穫を

しながらの抜き取り収穫では株間20センチ、かき取り収穫では株間40センチにします。発芽後20日程度の間隔で追肥（10グラム）を2、3回します。また、同時に除草をかねて中耕・培土をします。

発芽後30日くらい、草丈20センチ程度で収穫です。大きい株から順次間引いて収穫します。かき取り収穫は大きくなった下葉から、茎を傷めないように丁寧にかき取って収穫します。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長）

平成23年（2011）3月10日（木）／南日本新聞

※永年家庭菜園入門として愛読してきました、月一木曜日の朝刊に掲載の「エンジョイ園芸 野菜編」は、告知により、今回で終了とのことです。執筆されました先生方のご苦勞に感謝し、お礼を申し上げます。

ロードマン